

まちづくり・地域づくり・意識づくりの知恵

＝災害に負けない減災社会をめざして＝

第 1 部

「減災社会を築く —東海地震への備え—」

講演者：岩田孝仁 (いわた たかよし)
静岡県危機管理部 危機報道監

地震や火山防災対策など、主に防災部門を専らとする。1995 年には、阪神淡路大震災直後の大阪府で防災計画の策定を手がける。これまでに、1983 年の日本海中部地震をはじめ、国内外の地震や火山災害等の調査を実施。静岡大学、富士常葉大学の非常勤講師として防災教育も担う。



☆☆☆ 地震が起きた時、わが家のここが危険! ☆☆☆



第 2 部

「戦国武将の城地選定と防災」

講演者：小和田哲男 (おわだ てつお)
静岡大学名誉教授

戦国時代史研究の第一人者として知られ、主著『日本人は歴史から何を学ぶべきか』『戦国の城』のほか『小和田哲男著作集』等の研究書を刊行。NHK テレビ「歴史秘話ヒストリア」や教育テレビ「日本史」などにも出演。また、NHK大河ドラマ「秀吉」、「江～姫たちの戦国」等の時代考証も務める。



(名古屋市博物館所蔵)

平成 23 年 8 月 30 日 (火) 18:00 ~ 20:00

会場：静岡県男女共同参画センター あざれあ 大ホール (静岡市駿河区馬淵1丁目 17-1)

事業課：TEL 054-250-8147

静岡駅から国道1号沿いに西へ (安倍川の方へ) 歩いて9分

- ・ 入場をご希望の方は、下記事務局までメールにて参加者氏名をお知らせいただくか、または、裏面の申込書にご記入の上、FAXにてお申し込み下さい。
- ・ **誰でも自由に参加出来ます。講演会参加費は無料です。**
- ・ 講演募集は先着順にて350名の受付を行います。
- ・ 会場準備の都合上、出来るだけ8月19日(金)までに事前申し込みをお願いします。空席がある場合は当日受付による参加も歓迎致します。

平成 23 年度 (社) 日本地すべり学会 第 50 回研究発表会および現地見学会実行委員会

事務局 〒422-8036 静岡市駿河区敷地2-22-21

国土防災技術株式会社 静岡支店 (担当 澤田、市川)

TEL054-236-1271 FAX 054-236-1281

e-mail: kenminkouen@jce.co.jp (県民講演会参加申し込み専用)

参加費無料

本年 3 月 11 日に東北地方を中心に甚大な震災が発生しました。被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げますとともに、1 日も早い復興をお祈りいたします。

(社)日本地すべり学会では、全国の地すべり研究者、行政の防災担当者、民間企業の防災技術者等の研究発表の場として「研究発表会」を毎年開催しています。今年は、8 月 30 日～9 月 2 日にかけて静岡県静岡市での開催となりました。当学会では、社会貢献の一端を兼ね開催県の皆様への啓発を目的として、毎年研究発表会に先だつて【県民講演会】をおこなっています。第 1 部では、地元静岡県の防災に尽力をつくされております岩田危機報道監に、東海地震に備えて、減災社会を築くことの重要性について講演頂く予定です。また第 2 部では、戦国時代史研究で有名な小和田先生に、戦国武将たちが自然災害に備えた知恵と工夫について講演頂く予定です。

静岡県は、近い将来に必ず起るといわれている東海地震、また火山や洪水・土砂災害等、様々な災害を被る地域であります。私たちは災害について正しく理解し、ひとりひとりが防災意識を継続して持ち続けていくことが大切です。今回の講演会では、開催県の皆様に少しでも役立つような内容を予定しています。

講演概要

◇第 1 部 『減災社会を築くー東海地震への備えー』(岩田孝仁氏)

東海地震は、静岡県の直下を震源域とする広域激甚災害です。東海地震に備えるため耐震化や津波対策など、様々な対策が取られてきました。一方、新たな課題も多く残されており、まずは自分たちの地域の災害環境(地盤や地形、津波、山崩れなどの災害危険度)を知り、自分自身が地域で起こる災害を具体的にイメージすることが重要です。

自らの命は自ら守る「自助」、自らの地域は皆で守る「共助」、それを支える「公助」をしっかり意識して、皆で減災社会を築くことの重要性について紹介します。

少子高齢社会を迎えて

平成 22 年 4 月現在、静岡県人口の高齢化率は 23.0% (ほぼ日本の平均)、2020 年には 30% に達し、3 人に 1 人は災害時要援護者にカウントされる時代になります。高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊産婦など、災害時に支援を必要とする人が身近に多くいる社会になり、防災力の強化が求められます。

災害時にも避難しなくてよい環境づくりを

まずは住宅の耐震化、家具の固定(家族で「家庭内 DIG」に取り組もう!)を行い、電気、ガス、水道などが途絶えても、避難所に行かなくても済む対策を各家庭で実践しておくことが必要です。

◇第 2 部 『戦国武将の城地選定と防災』(小和田哲男氏)

戦国時代、100 を超す戦国大名が登場し、弱肉強食の論理によって、地方を代表する権力が出揃い、最終的には、信長・秀吉・家康のいわゆる「天下取りの三英傑」によって戦国乱世に幕がおろされることになる。その間、およそ 100 年間、戦国大名は自己の居城を築き、領国統治の拠点とするわけであるが、その戦国大名の居城を中心にしてきた城下町がほとんどそのまま近世城下町に引きつがれ、それが近代の都市として今日に至っている。そこは、比較的自然災害が少ない場所で、これは戦国大名の城地選定がすぐれていたからである。今日の都市のルーツというべき戦国大名の町づくりを、城地選定という視点から掘り下げてみたい。

また、戦国武将たちは治山・治水にも力を入れていた。有名な武田信玄の信玄堤、加藤清正の清正堤だけでなく、豊臣秀吉の文祿堤など、これまであまり知られていなかった施策も最近の研究によって明らかになってきた。

防災という観点から、戦国武将たちの知恵と工夫の足跡を追いかける。

平成 23 年度 (社)日本地すべり学会研究発表会 県民講演会 入場申込書 (FAX 専用)

参加者氏名	参加者氏名